



あけぼの

発行
西区人権尊重連絡会議
(事務局)
西区生涯学習推進課
(☎895-7026) (FAX882-2137)

「令和七年度 西区人権尊重連絡会議委員研修会」
講演会
AIと人権 — 「AIによる差別」と公平性
講師 九州大学大学院法学研究院准教授 成原 慧さん

令和7年6月24日、西市民センターにて、西区人権尊重連絡会議委員を対象に、人権研修会が行われました。講師は、九州大学大学院法学研究院准教授 成原 慧さんで、講演会テーマは、「AIと人権— AIによる差別」と公平性」でした。成原さんのご専門は、情報法です。

講演内容は以下の通りです。

AI(人工知能)は、開発者の意図にかかわらず、学習したデータの偏り(実際の社会とデータのずれや、社会自体に存在する差別)や個別事情の捨象(AIが属性に基づいて判断するため、一人ひとりに配慮していないこと)などの

影響を受ける可能性があります。このため、AIは、間違った答えを導き出したり、差別的な判断を下したりするリスクを抱えたりしています。

その差別の多くは、AI自体が差別を生み出したというよりも、人間がこれまで生み出してきた差別の構造を、AIが学習してきたデータを通じて再生産する形で現れます。つまり、AIの判断が公平なものとなるかどうかは、使用されるデータに依存します。「AIによる差別」は、人間社会に潜む見えない差別や偏見、バイアスを問い直すきっかけとなっているのです。

「AIの時代」における人間の役割は、AIに与える正確なデータを収集・調整すること、AIの判断の正確性・公平性をチェックし、必要に応じて修正すること、他人や社会に対して説明し責任をとることなどがあります。

現在、話題となることが多いAIについて、委員の皆さんが、そのリスクや課題に真摯に向き合うきっかけとなったようでした。



「令和七年度 西区人権を考えるつどい」

講演会

LGBTQの基礎知識と性別不合(トランスジェンダー)当事者の真実について

講師 一般社団法人 inc.九州支部長

福岡県同和問題をはじめとする人権問題に係る啓発・研修講師団講師

黒部美咲さん

令和7年8月20日(水)14時から、西市民センターにて、西区人権尊重連絡会議、西区役所、西市民センターの共催で、「LGBTQの基礎知識と性別不合(トランスジェンダー)当事者の真実について」と題し、一般社団法人 inc.九州支部長 黒部美咲氏より講演をしていただきました。講演会は定員を大幅に超える申し込みがあり大盛況となりました。

事業者の存在が可視化されていないだけということも説明されました。

講演ではLGBTQについての言葉の説明や人の性別についての解説、また、性的マイノリティ当事者は皆さんの周囲にもいるということ、いないのではなく、差別や偏見が怖くて言えないだけ、性的マイノリティ当

令和5年からLGBT理解推進法が施行され、福岡市ではパートナーシップ宣誓制度受領証の交付や性的マイノリティの交流事業、ふくおかLGBTフレンドリー企業登録制度などに取り組んでいます。LGBTQに対する理解を定着させるために何が必要か、考えてみませんか。

福岡市パートナーシップ
宣誓制度

福岡市では、年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などに関わらず、すべての人の人権が尊重され、市民一人ひとりが互いに多様性を認め合うことで、誰もが自分らしく輝くまちをめざしており、平成30年度から性的マイノリティの方への支援のひとつとして、パートナーシップ宣誓制度を導入しています。

「福岡市パートナーシップ宣誓の取扱いに関する要綱」に基づき、パートナーシップの宣誓による宣誓書受領証の交付を通じ、性的マイノリティの方々が抱える生きづらさの解消につなげるものです。

この制度の導入により、性的マイノリティに関する社会的理解が進み、パートナーシップが尊重される取組が広がっていくことを期待しています。

「第54回 福岡市人権を尊重する市民の集い」 講演会

外国人と仲良く暮らせる日本を目指して

講師 数学者・大道芸人 ピーター・フランクルさん

令和7年12月4日(木)、西部地域交流センター(さいとぴあ)にて、数学者であり大道芸人でもあるピーター・フランクルさんをお招きし、講演会を開催しました。ハンガリー生まれ、ユダヤ人のピーターさんは、第二次世界大戦中、祖父母がアウシュヴィッツ収容所で殺され、自身も差別を受けた経験をお持ちです。大学在学中に勉強したフランス語がきっかけとなり、フランスへ留学したことからピーターさんの人生が動き出します。

12か国語を操り、数学者として活躍しながら、これまで110か国以上を訪れたピーターさんが現在日本に住んでいるのは、「日本の人が好きだから」という理由だそうです。日本人は仕事がとても丁寧であることに加え、結果に至る過程を大事にするところに数学との共通点を感じ、「努力する人を認めてくれる国」であるところが、自分にあうと思ったのだそうです。

友好的で優しい人が多い反面、「日本人には『うち』と『そと』がある」と話すピーターさん。自分たちの仲間(うち)だけの世界があり、外国人などよそ

から来た人(そと)となかなか深く交流しない雰囲気があるのを見たとき、本当の国際化は、実は日本国内から始めないといけないのではないかと感じたそうです。「近づくか距離をおくか」と考えるのではなく、「話しかけて近づく」とする心の状態が大事だということです。「袖すりあうも他生の縁」(どんな小さな出会いや関わりも偶然ではなく、すべて「縁」によって起こると考える)ということわざを例に挙げ、日本にいる外国人とせっかく出会った縁をチャンスだと思って話しかけてみるのが、「豊かな人生につながる」のでは、と出会いの大切さを話されました。

現在、福岡に来る多くの外国人は、「日本が好きだから日本を選んで来ているのですよ」とピーターさんは言います。「外国人を排除、入国を制限」などという最近の日本の情勢を心配しつつ、講演の最後には、「出会いを楽しんで。大切なのは“Keep Your Heart Open”(心をいつも開いた状態で)」と話されました。差別をなくす社会を作るために、「心を開くこと」は、外国にルーツをもつ人に対してだけでなく、同じ日本人同士でも心にとめておくべき言葉だと思いました。



みんながスポーツを楽しめる社会を

西区人権教育推進員 福岡市陸上競技協会理事 櫻井 和行

福岡市において、障がい者の陸上競技大会が開催されるようになって、三十年ほどになります。福岡市陸上競技協会(以下協会)はその頃から審判等のスタッフとして協力しています。

十五年ほど前からは、福岡市障がい者スポーツ協会の主催する陸上教室や全国障害者スポーツ大会へ向けての強化についての協力もするようになりました。私自身は中長距離走のコーチを担当しています。

陸上教室には毎回、五十人程度の選手が参加し、その内の十人程度が中長距離の選手です。参加者は知的障がいの若者を中心に聴覚や視覚障がい者などがいます。競技力も全国大会を目標にしている人から陸上教室の時だけ運動する人まで様々です。

教室ではこんなこともありました。ある視覚障がいの選手を指導している時のことです。その選手から、「話しかけた後にその場を離れる時は、必ずいなくなることを

伝えてから離れてください。」と言われたのです。黙って離れてしまうとコーチの私がいけないことに気づけないのです。

少し考えれば分かるようなことですが、普段、目が見える人だけで生活しているため気づかなかつたのです。陸上教室は私にとって学びの場にもなっています。

協会では新たな取り組みとして一般の競技会にも障がい者の部を設けるなど、みんながスポーツを楽しめる社会を目指して活動しています。

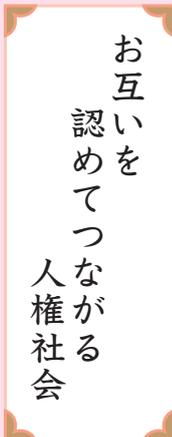


第24回全国障害者スポーツ大会の様子

令和7年度 入選作品 (西区内)

毎年12月の人権尊重週間にあわせて、福岡市が募集した標語やポスターのうち、西区内の入選作品を紹介します。

姪浜中学校 2年
山本 葉菜さん



西陵小学校 3年
熊谷 京華さん



下山門小学校 3年
新田 暁彦さん



下山門小学校 5年
新田 結子さん

